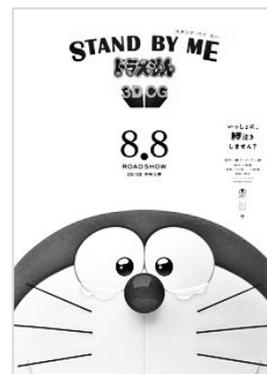


# 『STAND BY ME ドラえもん』

2014年／日本／八木竜一・山崎貴 監督作品

## 誰でも「ドラえもん」

会員 木村 容子 (64期)



© 2014 [STAND BY ME  
ドラえもん] 製作委員会

### はじめに

私は漫画家の藤子・F・不二雄氏の作品、とりわけドラえもんの漫画が大好きである。「(この歳で)今さらドラえもん?」と言われたこともあるし、子どもっぽいと思われる方もいらっしゃるだろう。しかし、今作は、「子ども経験者へ」といった触れ込みもあり、子どもだけでなく、実は大人が様々な思いを感じることができる部分が多々ある。なお、作品の結末に触れるため、鑑賞前の方はご注意ください。

### あらすじ

今作は、主に複数の原作の名作をテンポよく繋ぎ、ドラえもんと のび太の関係性や、 のび太としずかちゃんの話を描いている。

22世紀のネコ型ロボットのドラえもんは、 のび太の悲惨な未来を変えるために、 のび太の玄孫セワシにタイムマシンでのび太のお世話係として20世紀へ連れて来られる。ドラえもんが乗り気でなかったため、ドラえもんはセワシによって、 のび太を幸せにしない限り22世紀に帰れないようプログラムされてしまう。その後紆余曲折を経て、ドラえもんと のび太は、 のび太がしずかちゃんと結婚できる未来を目指し奮闘する。

### ドラえもんと のび太はいつか

映画のなかで、 のび太がタイムマシンで未来に行き大人になった のび太と会うことになるが、大人の のび太は、ドラえもんに挨拶をしない理由として、子どもの のび太に「ドラえもんはきみの、ぼくの子どもの頃の友達だからね」というような説明をする。この意味深長な台詞により、大人になった のび太は既にドラえもんと別れていることが示唆され、ふとドラえもんがどの時点

で22世紀に帰るのか疑問が湧く。この疑問は解消されないまま、映画はドラえもんがプログラム上強制的に22世紀に帰るという局面に突入する。その後、ある理由でドラえもんは再び20世紀に戻ってくるが、いずれにせよ のび太が大人になるまでの間、いつ22世紀に帰るのか等については不透明なままだ。このことは、未来よりも今に重点を置くスタンスであると私は感じた。さらに、一時的ではあるがドラえもんと のび太のシーンが強調されたことと相まって、当たり前存在と感じていたドラえもんと のび太の出会いの奇跡を強く感じるようにできている。今その瞬間を大切に、今そばにいるドラえもんと のび太の時間を大切にしようというメッセージが読み取れる。

### 今、身近な「ドラえもん」を大切に

このことはドラえもんと のび太の関係だけでなく、私たちの世界にも当てはまる。今はドラえもんこそ発明されてはいないが、実は見渡せば、私たちのそばには、助けてくれる身近な人、ドラえもんのような大切な存在がいることに気付かされる。ドラえもんが22世紀からタイムマシンでやってきたことは奇跡的である。それと同様に実は身近な人々との出会いも奇跡であって、共に過ごす瞬間を大切にしたいという気持ちになるのである。誰しも周囲にはドラえもんがいて、その者も誰かにとってのドラえもんになり得るのだ。

また、ドラえもんと のび太の関係は、一方的にドラえもんが のび太を助けるという関係から、一緒にいて幸せであるという関係性に至っている。つい当然の存在と思いがちであるが、そういう身近な「ドラえもん」と呼べる存在を大切にしていこう。